

ふれあい酪農バスツアー

～中越沖地震・被災酪農家を激励～

平成19年度地域畜産ふれあい体験交流推進事業の地域畜産体験交流研修会として、8月23日(木)にふれあい酪農バスツアーを開催しました。



当日は、一般公募した小学生親子18組36名が参加し、出雲崎町の出雲崎酪農組合(良寛牛乳)で牛乳工場を見学した後、同町の諸橋酪農にて体験交流を実施しました。

まず、牛がどのようなエサをどのように食べるかを知るための給餌体験や、バケツを使った器具で子牛にミルクを飲ませる哺乳体験を行いました。

次いで、ブラシ掛け体験を行い、気持ちよさそうにしている子牛の可愛さ、あたたかさなどを肌で感じることができました。

そして、みんなが一番楽しみにしていた搾乳体験では、上手に搾れて大喜びする子供や、生乳のあたたかさに驚く子供もおり、大変有意義な体験交流研修会であったと感じています。



中越沖地震で被害を受けた諸橋酪農を参加者が激励

全国表彰候補として2経営を推薦 ～平成19年度全国優良畜産経営管理技術発表会～

中央畜産会・全国肉用牛振興基金協会の主催による「平成19年度全国優良畜産経営管理技術発表会」への推薦候補事例を7月27日に開催した審査委員会において次の2経営に決定しました。

(酪農経営) 尾田 修一氏(新発田市)

尾田氏は昭和43年に酪農経営を開始し、現在は経営牛50頭規模まで拡大を図っています。経営理念として、消費者に自信を持って提供できる乳質の高い生乳生産を掲げ、平成18年には新潟県畜産協会からクリーンミルク生産農場として認定されています。

酪農経営の収益性向上手段として、北海道の契約農場に5ヵ月齢前後で預託した育成牛に自己有の受精卵を移植する方式により、低コストでの和牛子牛生産を取り入れています。

生産された子牛はパイプハウス製の低コスト施設で、初期発育に重点を置いた管理により、家畜市場では高い価格で取引されています。

平成18年には長男が後継者として就農し、将来的には規模拡大を目指しており、今後の経営の発展が更に期待される経営です。

(養豚経営) 吉澤 博文氏(田上町)

吉澤氏は父が昭和43年に開始した養豚経営の2代目として、平成元年に後継者として就農し、母豚100頭規模の経営を行っています。

経営の特徴とし、繁殖成績、肥育成績がともに優れ、収益性の高い経営を確立しています。そのために、機械化による省力管理とオールイン・オールアウト方式並びにHACCP方式に基づいた衛生管理を導入し、飼料は独自に見いだした木炭入り指定配合飼料を用いて健康な豚を飼養しています。

生産した豚肉はプライベートブランド「熟成豚」としてスーパーで販売されているほか、県内のホテルや旅館でもその美味しさを認められて利用が拡大しています。

また、堆肥を近郊農家や秋田県のJAS認定無農薬有機米栽培グループに販売し、資源循環型農業を推進しています。